

**ご当地自慢**

重要伝統的建造物保存地区  
奈良井宿・木曾平沢（漆工町）

16

中信森林管理署

◆中山道奈良井宿

長野県塩尻市に中山道木曾十一宿中、最も賑わった奈良井宿があります。その繁栄のさまは「奈良井千軒」とも呼ばれるほどで、鳥居峠上り口にある鎮神社を京都側の端に、奈良井川沿いを緩やかに下りつつ約一キロメートルにわたり家並みが続いています。

江戸時代や明治時代の建築物が立ち並び、往時の面影を色濃く残す奈良井宿は、昭和五十三年に国の重要伝統的建造物保存地区（重伝建）に選定されています。



奈良井宿

重伝建に選定され三十六年が経ち、これまで修理修景が行われ江戸の宿場町を肌で感じる町並みとなりました。江戸時代の形式をとどめた家で、現代の生活が営まれておりますので、ゆっくり町を歩いては如何でしょうか。



高札場



水場

【鎮神社】

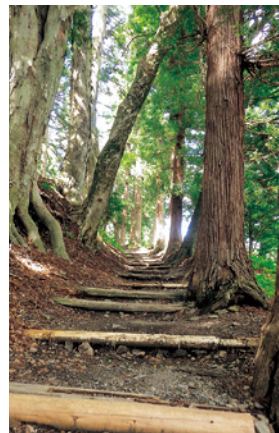
元和四年、奈良井宿に疫病が流行り、これを鎮めるために下総国香取神宮から経津主神を招き祭祀を始めたといわれています。



鎮神社

【杉並木と二百地蔵】

塩尻方面よりの旧中山道では、杉並木が旧街道の面影を良く伝えており、胸高直径五〇センチ以上の杉、一七本を数えます。また、明治初期の国道開削・鉄道敷設の折に奈良井宿周辺から集められた千手の観音・如意輪観音などの観音像があります。



中山道と杉並木



観音像

◆木曾平沢（漆工町）

木曾平沢は、慶長三年に奈良井川の左岸にあった道が右岸に付け替えられたことを契機に周辺から移転し集落が形成されていったと考えられています。この道は

中山道の一部として整備されました。近世には、奈良井宿の在郷として位置づけられ、檜物細工、漆器の生産で生計を立ててきました。

このような近世状況から木曾漆器が大きく発展したのは、明治初期に地区内で「錆土」という下地材が発見されたことにより産業としての基盤が確立し、漆工町として発展してきました。

これらの歴史的景観と漆工という伝統工芸の職人町として木曾平沢は、平成十八年に国の重伝建に選定されました。裏通りや小路を歩き表通りでは発見できない魅力に気づいてください。



木曾平沢の町並み

アクセス方法

【公共交通機関】

奈良井宿…J R 中央西線奈良井駅下車  
木曾平沢…J R 中央西線木曾平沢駅下車  
「自家用車」 中央自動車道伊那 I C ( 国道三六一号線経由で約四十分